

シーダが 勇気を 出せるようになるまで



シーダはこわくて、
クラスメートと
話すことが
できませんでした。



イラスト/スーザン・キーター

きょうかい きかんし
教会機関誌

ルーシー・スティーブンソン・イーウェル

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

大きく深呼吸すると、新しい教室に入ってきました。
4年生になって初めての日です。

昨年、シーダは2年生でした。シーダはとても成績が良かったので、学校が3年生を飛び級させてくれたのです。4年生になったらもっとむずかしい算数の問題をといて、もっとたくさん本を読む、と楽しみにしていました。でも、前の友達とはなればなれになるのは、うれしくありませんでした。

教室を見回すと、自分が小さく思えました。新しいクラスメートはみな、自分よりも年上で体が大きく見えます。もしこのクラスになじめなかったらどうしましょう。

つくえを見つけて、すわりました。せ
の高い女の子がとりにすわりました。

「こんにちは」とシーダが言うと、

「ここで何してるの?」と聞いてきました

。「あなたは3年生のはすよ。」

「学校が一学年上げてくれたの」とシーダは
きんちょうして言いました。

その女の子は意地悪な顔をしました。「ふん。ど
んなに頭が良くて、あなたはまだ赤ちゃんよ。」

シーダはひどくいやな気持ちになりました。その
週は、こわくてクラスのだれとも話せませんでした。
だれかが笑ったり、ひそひそと話したりするのを
聞く度に、シーダは顔をしかめました。きっと自
分について意地悪なことを言っているのでしょう。

最悪だと思っていたところに、算数のテストが返ってきました。
シーダは点数を見て泣きたくなりました。算数は大好きな
科目でした。テストでこれほど悪い点を取ったことは、一度もあ
りませんでした。

家に帰ると、シーダはなみだをおさえることができませんで
した。「友達がいないの」と両親に言いました。「4年生には
とけこめないわ。わたしはそんなに頭が良くないもの。」

「大変ね」とシーダのお母さんは言いました。「でもね、あなた
は間違いなく頭がいいのよ。それに、今でも勉強しているわ。」

シーダはなみだをぬぐいました。「3年生になれたらよかった。」

少しの間だまっていたお父さんが、「神権の祝福はどうか」と
聞いてきました。

シーダはうなずきました。お父さんから祝福を受けたら、気
持ちは晴れるかもしれません。



シーダが椅子にすわると、お父さんは
シーダの頭に手を置いて、

「おそれがなくなるよう祝福します」と
言いました。「また、新しいクラスの人た
ちを好きになれるよう祝福します。あなた
のことを知るにつれて、クラスの人たちもあな
たのことが好きになるでしょう。」

おだやかな気持ちが、シーダのむねの中に広が
りました。お父さんの言葉は、天のお父様が自分に伝
えたいと思っておられる言葉なのだと感じました。

祝福の後、お母さんはシーダの算数の問題を見て
くれました。間もなく、シーダは少し気分が良くなりました。

次の日学校で、シーダは前の日に受けた祝福を思い
出して、勇気を出そうと努力しました。そして、クラスみんな
に笑顔をつよめました。愛をしめすと、クラスの人たちのこと
があまりこわくなくなりました。とても親切な人もいたのです。
よく勉強したので、間もなく成績も上がりました。

学年が終わるころには、たくさん友達ができていました。シー
ダは、天のお父様が勇気を出せるよう助けてくださったのだ、と
うれしくなりました。そして、いつでも神権の力の祝福という助
けがあることに、感謝しました。●

このお話は、リベリアでの出来事です。